

議員定数問題懇談会記録

1 日 時 令和5年10月30日(月曜日)
開 会 午後1時08分
閉 会 午後1時19分

2 場 所 第1委員会室

3 出席委員 12人

座 長	高 田 重 信
副 座 長	久 保 大 憲
委 員	舍 川 智 也
//	江 西 照 康
//	大 島 満
//	谷 口 寿 一
//	松 尾 茂
//	尾 上 一 彦
//	横 野 昭
//	村 石 篤
//	鋪 田 博 紀
//	赤 星 ゆかり

4 欠席委員 0人

5 職務のために出席した者

【議会事務局】

事務局長	渡 辺 康 裕
事務局次長	大 野 満
庶務課長	山 下 達 也
議事調査課長	坂 口 輝 之
庶務課主幹（課長代理）	中 山 崇
議事調査課長代理	酒 井 優
議事調査課議事係長	土 方 智 樹
議事調査課調査係長	谷 端 裕美子
議事調査課主査	中 村 千 里

6 協議結果について

（1）各会派の意見について

令和7年4月に執行予定の市議会議員選挙における議員定数の考え方について、前回（9月26日開催）以降に各会派で検討された意見を聞いた。

前回と変わらず現状維持という意見が大勢を占め、少数意見として「定数を37人とすべきである」「定数を32人とすべきである」との意見があり、これらの意見を議長に報告することを決定した。

（2）その他

今回をもって今任期の議員定数問題懇談会の協議を終了することを決定した。

7 会議の概要について

座長 ただいまから議員定数問題懇談会を開会いたします。

〔報道機関のテレビカメラ撮影を許可〕

座長 協議に先立ち、懇談会記録の署名委員に大島委員、谷口委員を指名いたします。
本日の協議事項は、各会派の意見についてであります。
前回の本懇談会では、議員定数について各会派の御意見をお聞きし、その後、各会派の意見をまとめた資料を事務局よりチームズで配付させております。それを踏まえて再度、各会派で議員定数について御検討いただくこととしておりました。
それでは、各会派で検討いただいた御意見を伺いたいと思います。
まずは、富山市議会自由民主党から順にお願いいたします。

舎川委員 前回の本懇談会から一度持ち帰り、会派のほうで改めて話をさせていただきました。その結果、前回お伝えした理由と同じく、現行の38人であれば、議員1人当たり人口1万人を基準に中学校25校区で分けることができ、それぞれの校区から住民の意見をある程度吸い上げることが可能であるということから、現状維持とした意見と変わりはありません。

江西委員 前回は、議長が議員の質向上のために定数を10人減らすという所信を各マスコミに表明されたということで、てっきりそこからのスタートだという前提でおりました。座長にはまず確認されたのかというお話もさせていただいて、その結果は聞いておりませんが、議長の考えというものはこの議員定数問題懇談会に全く関係ないもの—それはもう解決したものだということであれば、定数を削減する論理が成立しないなどという片側だけの主張は全く必要ありません。様々な理由により途中で辞職する議員もお

りますし、前回の選挙でも議員定数を上回る立候補者がいたことから現状維持が望ましいのではないかと一前回とほぼ同様ですけれども一何かの意見に対抗するような意見は言う必要はないと思いますので、そのような形で会派の一任は取ってきております。

松尾委員 前回と同様でありまして、現状維持が適しているのではないかという考えでおります。

村石委員 結論から先に言いますと、議員定数は現状を維持すべきであるということであります。ただ、付言しますが、振り返ってみると定数を40人から38人にしたのは人口などということ以上に議員報酬を上げることが大きな理由であったということは踏まえるべきではないかと会派で話してまいりました。そのときは、我が会派は議員報酬の引上げや議員定数の削減については反対していたということであります。

尾上委員 前回お話をさせていただいたとおり、我が会派も現状維持ということでお願いしたいと思っております。

赤星委員 私どもも現状維持という結論です。先ほど村石委員がおっしゃったとおり、40人を38人にしたときは合理的な理由というよりも議員報酬の10万円引上げが中心であったことから私たちも反対しました。加えて言いますと、議員定数を減らせば減らすほどますます女性や若者などの支持基盤を持たない多様な方が議員になりにくい、選挙に出にくいという状況になっていきますので、定数削減には現状でも反対です。

谷口委員 前回提案したとおり、私には4つの部門別常任委員会の定数をそろえるべきだという考えが根底にあります。4つの部門別常任委員会掛ける9人で36人だと。プラス1人というのは、前回も言いましたけれども、現状では議長が予算決算委員会には所属し

ていませんが部門別常任委員会には所属しているといういびつな形になっております。そのことに違和感を持っているのですけれども、やはり議長の枠を別に捉えるということで、資料に書いてありますが37人もしくは33人がいいと。今回、37人か33人かという最終的な結論としましては、多くの会派で現状維持とされている中で、一番近い考え方でいけば4つの部門別常任委員会で9人ずつ、4掛ける9は36、プラス議長で37人と提案させていただきます。

大島委員

会派名にもつけてありますとおり、やはり32人を主張したいと思います。人口減少がこれから加速する中で企業会計や一般会計も多くのインフラを抱える時代になって、財政的に厳しくなるということは目に見えて予想できることであります。

議員1人に人口1万人と言われますが、38万人—今の人口から1万人、2万人少なくなってから削減するということになりますと、相当先の話になるかと思っておりますので、ここはやはり議会として定数を削減して、当局やいろいろな会計に対して厳しく臨むべきだということを主張したいと思っております。

座長

ただいま各会派の御意見をお聞きしたところですが、前回お聞きした内容と変わらないようであります。この際でありますので、ほかに御意見等はありませんか。

舎川委員

それぞれ意見を各会派に持ち帰って、今回改めて議論されました。ただ、本質的なところは前回と変わらないということでありまして。皆さんの御意見が変わらないのであれば、議員定数についての議論はこのあたりで終えてもいいのではないかと思います。

江西委員

もう意見がないのであればいいのですけれども、座長として議長とどのような話になったのか、御見解をお聞かせいただくことはできないのですか。

座長 議長も交えて会派で意見交換をしました。現状維持でよいという意見が多数であれば、議長も就任時に自分が言ったことは取り下げるということをおっしゃっていましたので、会派としての意見は、舎川委員が発言したとおりです。

（発言する者あり）

大島委員 全く余計なことで失礼があったら申し訳ないのですが、前回、4年前も定数は現状維持となっておりながら、選挙の直前になってマスコミの方に何人削減するのかというアンケートで一例えば金厚議長も10人削減とおっしゃっていたのですが、それだけはやめてほしいと思っております。

座長 座長の役目としてしっかりと伝えておきます。ほかに意見はありませんか。

〔発言する者なし〕

座長 ないようですので、この程度にとどめます。これまで令和7年4月執行予定の富山市議会議員選挙の定数について、様々な御意見をいただきましたが、意見の一致は見られないようであります。そこで、私としては本日をもって議員定数問題懇談会の協議を終了することとし、また、本懇談会の協議結果として現状維持との意見が多数を占めたこと、ただし、少数意見でありました、気魄、政策フォーラム32の意見はその理由等もつけてしっかりと議長に伝えておきたいと思っております。これらを踏まえて議長へ報告したいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

座長 それではそのように決定いたします。以上で、本日の協議事項は終了いたしました。これをもって、今任期の議員定数問題懇談会を閉会

いたします。

令和5年10月30日
議員定数問題懇談会記録署名

座 長 高 田 重 信

署名委員 大 島 満

署名委員 谷 口 寿 一